

CELERY

No. 5
1990

CAMPUS
COMMUNICATION

さわやかな朝、
一日の希望が、青空に舞う。

中村学園大学・中村学園短期大学／広報

新しい知的

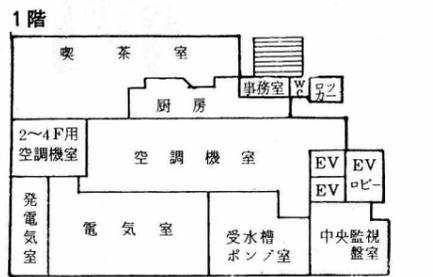
空間誕生

待望の(新)西1号館オープン

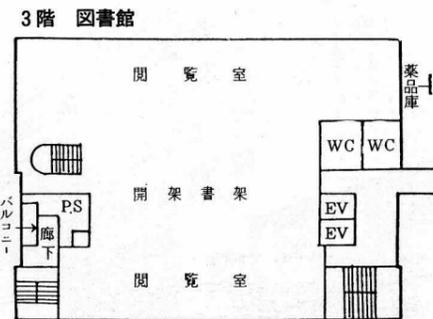


いる。
本学の周辺にはこの新館より高い建築物はなく、高さ四十メートルの十階からは、博多湾が展望できる。古くは金印発見の島として、また近年では海浜レジャーゾーンとして脚光を浴びてきた志賀の島、そして、アジアの中心都市としての福岡の発展を象徴する福岡タワーなどが見渡せ、眺望の良さが楽しめる。
一月十六日から始まった図書館の移動作業を皮切りに、各施設とも現在急ピッチで備品等の搬入が行われており、四月から新しい姿で利用客を迎える日を待っている。

昭和六十三年八月の着工から一年八月月をかけた新「西一号館」が完成、一月二十七日に竣工式が行われた。
当日は一月の雪としては観測史上七十二年ぶりといわれる大雪の二日後で、キャンパスのあちこちに雪が残る寒い日だった。式には学園関係者、工事関係者の約四十名が出席、厳かに神事が執り行われた。
同館は鉄筋コンクリート造り、地上十階建てで敷地面積三五、一一・五一平方メートル、延床面積八、七四〇平方メートル、二階から四階までは渡り廊下で中央本館と結ばれている。
外壁はシックなレンガ色のタイル、正面階段からベデストリアンデッキにかけては壁面に大理石、床にはみかげ石が用いられている。また、各階とも窓を大きくあけ、自然光をたくさん取り入れて、明るく開放的な雰囲気をも出し出している。
「LIBRARY CENTRE」と掲げられたシルバーマテリアルのプレートが示すように、同館は図書館の機能充実を第一に考えて建てられており、二階から四階までをそのスペースにあてている。また、五階は情報処理センターとして、研究用・演習用のコンピュータ端末室が設けられ、二十一世紀に向けた本学の教育・研究の中核施設として位置づけられている。



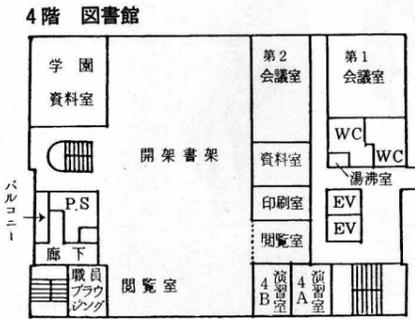
1階 ▶講義の合間にちよつとひと息。喫茶室では、前庭のグリーンを眺めながら楽しい会話が弾みそう。



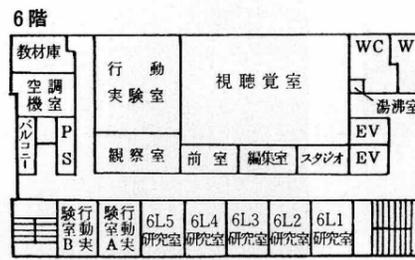
3階 ▶見やすくなった書架、くつろいだ気分が読書できる閲覧室。採光にも充分配慮してあり、学習意欲も高まりそう。



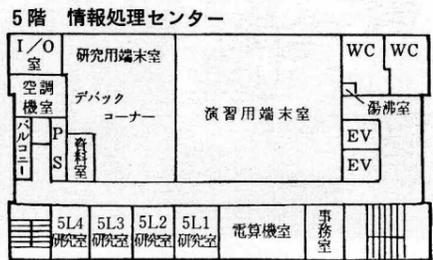
2階 ▶新聞・雑誌はブラウジングルームでゆっくりと。面倒だった図書の貸出系統は、コンピュータ化によりグンとスピードアップ。



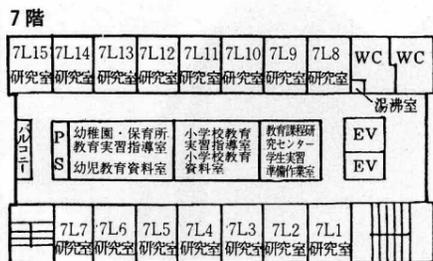
4階 ▶会議室と演習室を設置。図書館の資料を使って中味の濃い討議ができそう。学園資料室には、創立者中村ハル先生の遺品等を収蔵。



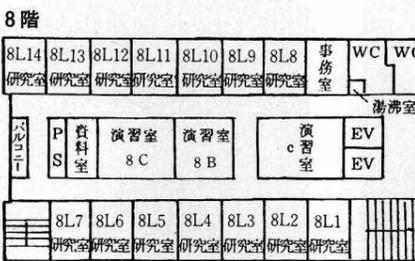
6階 ▶リスニングルーム仕様の視聴覚教室および、心理学系の教員研究室と行動実験室を整備した。



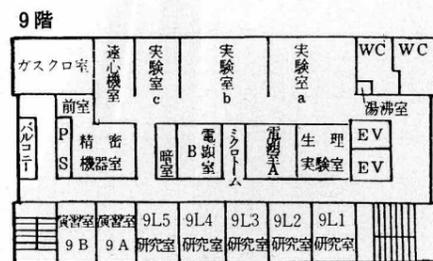
5階 ▶研究用・演習用あわせて六十台のディスプレイ端末装置と三十五台のプリンターが、一フロアに並んだ。情報教育がグレードアップ。



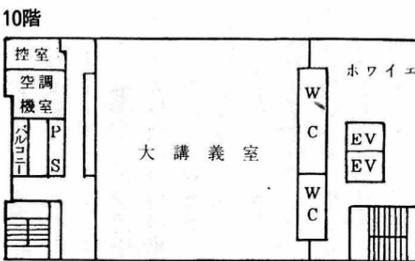
7階 ▶児童・幼児教育系の教員研究室十五室と、学生の教育実習関係資料が備えられた指導室等が設けられている。



8階 ▶一般教養科と家政科の教員研究室のほか、演習室三室が設けられる。ゼミナールなどに活用される。



9階 ▶新設予定の大学院に関連する研究室と実験室等を設置。細胞から原子のレベルまで観察できる電子顕微鏡が高度な研究に力を発揮。



10階 ▶展望の良さが自慢のフロア。三層の大教室は、講演会や演奏会など多目的に活用できそう。

新図書館の運用について

図書課長 平川友視

このたび待望久しかった新図書館が完成しました。新図書館は西一号館の二階から四階の三層を占有する立体構造施設で、全学の学生・教職員の皆さんの関心と期待は、まことに大きなものがあると思います。

以下、新しい図書館が目指す運営の改善・機能の拡充等について、その概略を紹介します。

一、図書館の運営
(一)施設の概略と入退館システム
新図書館の二階は利用者動線上のメインフロアです。この階には事務室のほか、参考図書室、新聞閲覧室(ブラウジングルーム)が設けられています。また、カウンター最寄りの場所には端末機が設置されており、学内外の文献検索が可能です。

三階は学生用開架図書閲覧室でA・V(オーディオ・ビジュアル)ブースを併設しています。

この階には新着の学術雑誌とその閲覧室のほか、和洋学術雑誌のバックナンバーや洋書を集中配架しています。また、学園資料展示室、演習室それから閲覧用個室も新設しています。

利用者は二階の入退館チェックポイントを通れば、あとは自由に館内を利用することができます。また、各階とも書架と閲覧席は並列させて配置していますので、探し出した図書を手近な席で自由に読んでいただけるようになっています。

(二)サービスポイントの集中
館員と利用者が接するサービスカウンターは二階のメイン・カウンターのみに集中。担当者が利用についての案内、図書の貸出と返却、文献複写、参考調査等の業務を行うことになっています。

(三)貸出業務のコンピュータ化
新館開館と同時に和書を中心に貸出業務の機械化を実施します。これにより、貸出・返却等の手続きは非常に簡便となり、迅速化されます。図書の貸出を受けるには図書に利用者カードを添えて提出するだけでよく、借用証に所属・氏名・書名等を記入するなど、これまでのような手続きは一切不要となります。

(一)読書環境の整備
図書館の基本的な機能は、文献を入手する場としての機能、それから読書の場としての機能の二つ



貸し出しがスピードアップ

です。学習図書館として、また研究図書館として新図書館では読書環境の整備をはかり、以下のように使用目的に応じて利用できる各種の閲覧室を設けました。

- 新着学術雑誌閲覧室 七席
 - 学術雑誌閲覧コーナー 二〇席
 - 演習室 二二席
 - 個室 二席
 - 学生用開架図書閲覧室一九〇席
 - AVブース 七席
 - 参考図書室 四八席
 - ブラウジングルーム 二〇席
- (二)学習図書館機能の拡充
学習図書館の中心となる学生用開架図書閲覧室の面積は一、二m²の広さとなり配架図書の収蔵可能冊数は五万冊を超えます。また、閲覧座席数も今までの二倍と拡充されました。

(三) 研究図書館機能の拡充

参考図書の種類は左記のようなものがあります。これらの図書は通読するものではなく、特定の知識・情報について調べるための図書であります。そのうち、書誌、抄録誌、索引誌などは二次資料と呼ばれており研究活動にとって欠かすことができない資料です。

- 新図書館では、これらの図書を一般図書からピックアップし、この室に集中配架しました。
- 参考図書の種類
- 辞書
- 百科辞典・専門辞典
- 年鑑・白書・便覧類
- 人名事典・名鑑類
- 図鑑・図録類
- 書誌
- 索引誌
- 抄録誌
- 二次資料

コンピュータ及び通信技術の発達と普及により、従来、印刷物の形式で刊行されていた書誌、目録、索引誌それから抄録誌がデータベース化され、遠隔地であつてもオンライン検索が可能となりました。当館では学外データベースの利用については、日本科学技術情報センター及びロッキドタイプログ社と契約を結んでおり、それぞれが提供しているJOIRS及びDIALOGによって文献の情報検索を行っています。

四月からは、これらの図書の書誌データや所在情報は備え付けの端末機により検索が可能となります。



3階 開架書架

学内データベースについては、一昨年来、当館が所蔵する図書の書誌データ(目録カード記載事項)の波及入力を行っています。既に和書五万冊の入力を終えています。

(四) 図書収蔵機能の拡充
単位面積当たりの収容力を大にするため、四階には集密書架(移動書架)を設置しました。竣工時の収容力は約十五万冊ですが、将来的には、最大約二十二万冊となります。今後の増加冊数は、今までより増えるものと思われませんが、少なくとも十五年から二十年位は十分対処できるものと思われれます。

積極的利用を待つ 情報処理センター

電子計算機室長 島内博行

はじめに
 本学の電子計算機室(平成二年四月から「情報処理センター」と改称予定)は、コンピュータを媒介とした各種の学術研究および情報処理教育における活用を目的として、昭和五十五年十月に設立され、以来今日に至るまで、研究・教育両面で多くの教職員、学生に利用されています。

設立以来、学際化・高度化する研究利用面では主として実証的研究に活用され、また現代社会の急激な情報化に伴う情報量の増大と多様化の中で、社会の要請に応じた情報処理技術を備えた若い人材を育成するために、計算機システムのレベルアップ、各種ソフトウェアの充実、端末の拡充等が図られてきました。その処理内容は、一般的情報処理に留まらず、栄養指導実習や給食管理実習などの分野でも活発に利用され、利用状況も年々増大の傾向にあることは顕著であります。

このような状況の中で、電子計算機室は、平成二年二月から新装なった西一号館へ移転し、整備された環境で、学術研究、教育面での幅広い活用に対応できる設備を備え、運用していくことになりました。新システムは、従来に比べ格段に優れた処理能力を有し、周辺設備についても多様な利用に充分対応できるように設計されており、特に本学の規模から考えて、教職員、学生の皆さんの研究・教育利用において極めて密度の高い活用が期待できるものです。

今後、情報処理センターは、学内における研究活動は勿論、高度情報化社会の様相を的確に把握、展望することのできる人材育成の教育の場として中心的な役割を果たすことが期待されるはすです。

情報処理センターの概要
 情報処理センターは、西一号館五階の全フロアを使用し、演習用端末室、研究用端末室、入出力機器室(1/0室)、マシン室および事務室などから構成されています。今回、新たに導入されたコンピュータシステムは、富士通株製のFACOM M760/4汎用中型計算機システムで、二十四メガバイトの主記憶装置と三千五百六十八メガバイトの磁気ディスク

備を備え、運用していくことになりました。新システムは、従来に比べ格段に優れた処理能力を有し、周辺設備についても多様な利用に充分対応できるように設計されており、特に本学の規模から考えて、教職員、学生の皆さんの研究・教育利用において極めて密度の高い活用が期待できるものです。

装置を装備し、各端末機器とはD-SLINKと呼ばれる高速通信網で接続され、研究・教育をはじめとした多目的処理にも充分対応できるシステム構成となっています。

演習用機器の充実
 演習用端末室にはディスプレイを二十五台設置しており、情報処理関係のカリキュラムをはじめとするコンピュータ教育において、クラス単位の演習も実施可能となりました。

また、教師側の端末画面の内容や各種資料および映像などを、全ての学生側のディスプレイ装置に随時表示することが可能な教材提示システムを充分活用することにより、指導内容をより確実に学生に伝えることが出来ます。

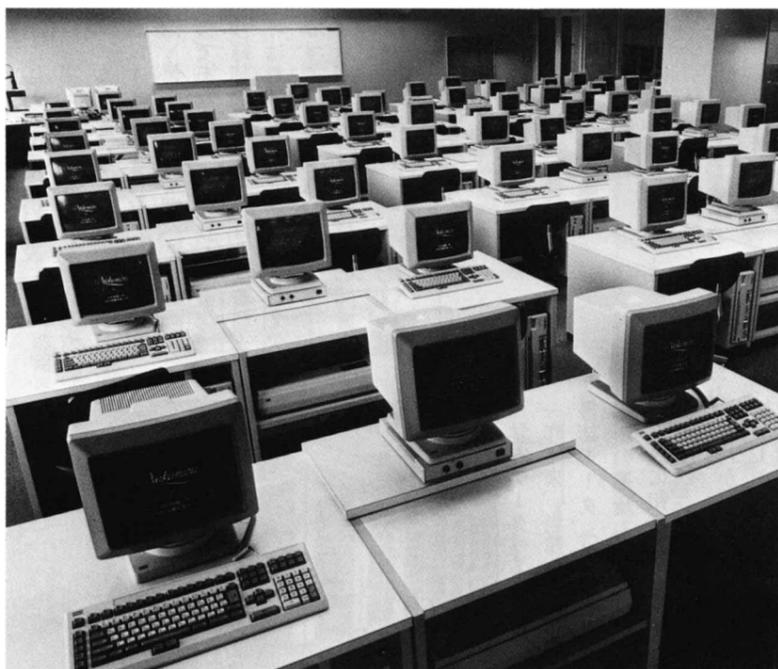
その他、電源管理システムにより、端末の利用状況や予約受付業務などが自動化され、事務室で集中管理出来るようになりました。研究用機器の充実
 研究用端末室は、ディスプレイ端末装置を十台と卓上プリンター十台を設置し、主に教職員の研究のための利用を目的としています。ここでは、高性能の端末機器

やサイドテーブルを設置するなど、研究者の作業環境の向上を図っています。また、数式や化学記号等を含む研究論文や資料の作成と、高密度印刷が可能なドキュメントシステムも用意しています。

豊富なソフトウェア
 新システムでは、機器装置類の充実だけでなく、ソフトウェアの充実も図っています。特に、本学で需要の多い、統計処理用のプログラムやプログラム言語などは、できるだけ多くの種類を揃えています。

以上、新しい情報処理センターの設備・機能について簡単に説明致しましたが、システムの円滑な利用と運用を計るために、利用の手引書の発行や講習会の開催、プログラム相談などを実施していきたいと考えています。

おわりに
 以上、新しい情報処理センターの設備・機能について簡単に説明致しましたが、システムの円滑な利用と運用を計るために、利用の手引書の発行や講習会の開催、プログラム相談などを実施していきたいと考えています。



演習用端末室

ヴェルツブルグの学術と文化

家政科 教授 木下 武人

ヴェルツブルグは一九八九年、筆者が留学した地。シーボルトやレントゲン博士を輩出した四百年の歴史を持つ街。

特にヴェルツブルグ大学は、シーボルトが医学や自然科学、民俗学を学び、レントゲンが一八九五年にエックス線を発見し教授した大学で、五人のノーベル賞授賞者を出した。日本の京都大学に似ている。

レントゲン研究所はヴェルツブルグ・シュヴァインフルト大学の所管であり、九月、紅葉に染まる研究室にクライン博士が案内してくれた。

ブロンズはレントゲンなり
 照葉かな
 武人

レントゲンは、エックス線の実験に最愛の妻の掌や友の手の關節

を撮っており、その写真が保存されていた。

レントゲン友の手形の關節の骨鮮かに撮れるをぞ見る
 武人

一方、シーボルトは一七九六年にヴェルツブルグの名門に生まれ、祖父・父ともにヴェルツブルグ大学の外科・産科学の教授で、一八一五年に同大学に入学。その薫陶を受け、内科・産科学の博士号を取得した。

一八二三年、長崎の出島にオランダ商館医として渡来。日本初の種痘接種や外科・眼科手術などの指導を行うとともに、鳴滝に塾を開き、後の高野長英、伊東玄朴など五十三名の弟子を輩出した。シーボルトは楠本タキと結婚、長女イネは後に日本初の女医となった。

長女イネは後に日本初の女医となった。

レントゲン、シーボルトの両人がヴェルツブルグの出身者であったことを多くの日本人が知らない。ヴェルツブルグは人口十二万人、千三百年から千七百年代に栄えた中世の中規模都市である。マインツ河をはさみ、マリアン要塞、ケッセル教会、レジデント、大学などの学術・文化、宗教、音楽、そして、中心は商業、周辺に工業地域を配した街で、マリアン城の上からは、中世の街がそのまま見はるかせる。

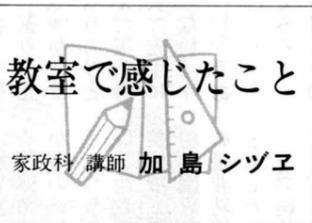


中世の面影がたたようヴェルツブルグの街

永い間民間の企業で採用や教育の仕事をしていた関係で、学校では驚きと戸惑いの連続である。

(その一)
 とにかく学生はよくしゃべる。週刊新潮の記事ではないが、講義が粗末で聞く気になれないのか、幼児化した学生を相手ではまともな話す気になれないのか、いずれが卵かニワトリか分からないが、

私語をやめない学生は、教室から追い出して欠席扱いにすればよいという意見には全く同感。新学期からその手でいこうかな。



教室で感じたこと
 家政科 講師 加島 シツエ

後期のある授業で、教材資料を配布したところ二部足りない。きちんと揃えて人数分持って来たのにおかしいなあと思いつつ頭数を数えたら二人多い。登録していない学生が受講しているのだから、その二人答えて日く「暇でしたのでこの教室に来ています」。

せめて先生の講義を聞きたくて、ぐらい言ってくれば可愛いのに。その二人がベチャクチャ喋っていたのはいうまでもない。

(その二)
 私の授業は三単位で、百三十五分の長丁場である。従って途中十分ほど休憩させる。パンやジュースを買いにいくな、手洗いにいくものさまであるが、このとき教壇にいる私と黒板の間を黙って通り抜ける。要するに私の後の狭いところを通るのである。教室は百人以上は入るし学生は五十人ぐらいだから、机と机の間はあちこち十分に空いているのである。こんな常識的なことも分かっていないのかと情けなくもなるが、このままでは職場で恥をかかかも知れないと思い、一から十まで教えている。秘書実務担当講師の辛いところである。

健康生活のススメ(4)

食物栄養学科・食物栄養科 講師 今井 克己



栄養士はお念仏の様に「バランス」「バランス」「バランスのよい食事を摂りなさい」と唱えています。しかし、これには理由があるのです。例えば、コアラやパンダは単一の食品(ユーカリの木・笹の葉)で完全な栄養素がとれる動物です。さて、人間はどうでしょうか? ヒトに必要な栄養素をほぼ完璧に含んでいる食品に最も近いものとして牛乳があげられます。これは赤ちゃんが一時期、ミルクだけで生きているのを見ればわかります。しかし、このミルクでさえ、ビタミンC、鉄、食物繊維などが不足しているのです。ですから、ヒトは、牛乳だけで一生を生きぬくことはできません。

ひとつの食品だけで人間の必要とするすべての栄養素をまかなうことはできないのです。

そこで、人間は雑食をしました。これは、歯の構造をみてもわかります。植物をかみ砕く臼歯と、肉を引き裂く犬歯を持っていますし、腸の長さは、草食獣と肉食獣の間とされています。ヒトは牛乳だけでも不十分、肉だけでも、野菜だけでも不十分、いずれも含まれている栄養素にでこぼこがあるのです。そこでこぼこを、いろいろな食品を組み合わせる必要です。ですから、食品の数が多くなればなるほど平らになります。

皆さんが健康にいいからと言って、ひとつの食品はかり食べていたら、でこぼこはもっとひどくなります。こうした意味からも「バランスの良い食事を摂りましょう」「1日30食品摂りましょう」という言葉が出てくるのです。

私学教育ひと筋に

中村理事長に勲三等旭日中綬章

平成元年度秋の叙勲で、中村久雄理事長が勲三等旭日中綬章を受章し、十月十四日東京の国立劇場で行われた伝達式で、文部大臣から勲記と勲章が授与された。この叙勲を祝う祝賀会が内田大作中村学園会々長ら十二人の発起人によって企画され、十二月二日、福岡市内のホテルニューオータニ博多で約三百五十人が出席し盛大に行われた。

中村理事長は、学園創立者の故・中村ハル先生が中村栄養短期大学を設立されるにあたり、昭和三十三年に理事・事務局長として就任し、経営面から学園の運営に尽力。昭和四十六年に中村ハル先生が逝去された後は、理事長並びに学園長として今日の学園を築いて



中村久雄理事長の肖像

この間、学外においては日本私立大学協会評議員、日本私立短期大学協会理事、福岡県私学教育振興会理事長、福岡県私学協会会長、日本私立中学高等学校連合会副会長などを歴任。

この永年にわたる私学教育の向上と発展に寄与された功績がこのたびの叙勲となった。

志岐幼稚園

創立十周年を迎える

「つよい子・やさしい子・考える子」を保育理念に、あさひ幼稚園に続いて昭和五十四年四月に開園した志岐幼稚園が、創立十周年を迎えた。十一月八日に行なわれた記念式典と祝賀会には学園関係者と園児の保護者等三十名が出席した。

式典には全園児も参加。「よろこびのこぼれ」や、「創立十周年のうた」(高良竹美初代園長作詞・園の教諭一同作曲)を合唱披露するなど、幼稚園らしい和やかな式典となった。

また、母の会からは幅一・二メートル、長さ九・五メートルのコンクリート製花壇一基が記念品として寄贈された。

スタートが肝心！ 就職指導始まる

平成三年三月卒業予定者の就職行事が、すでにスタートしている。学生課では昨年十二月七日から十二日にかけて、各学科別に第一回就職説明会を開催。新年度版の「就職の手引」を配布し、現在の就職状況及び今後の心構え等について担当者から説明があった。

また就職に関する個人面談も十二月十一日から一月十六日にかけて学生課で実施され、新卒生年次生全員が個人面談を終了した。

この他、公務員希望者を対象にした「公務員セミナー」も十二月十四日の第一回を皮切りに順次開催されており、専門の講師から法律・経済や教務の処理等、実際の出題例をもとにくわしく解説がなされる予定。一年生も受講できるので情報集約のためにも参加するとよいだろう。

就職決定のポイントには、早くから積極的に動くこと。また、就職をイメージとしてとらえるのではなく、自己の適性を考え、現実的に対処することだと担当者は語っている。

今後多種々の就職関係行事が、計画されているので、積極的に参加し、目標の職種・業種を目指していただきたい。

学園回想 (4)

中村学園女子高等学校の誕生

学校法人中村学園理事長 中村久雄

昭和三十一年四月、中村栄養短期大学開学と同時に、創立者中村ハルは自ら学長に就任し教育、研究の充実向上に情熱的に取り組んでいた。ところが一、二年たつうちに何かしなことに気付いた。短大に入学してきた女子学生の態度が全くなっていないのである。永年女子教育に携わってきた中村ハルの頭の中には、女子学生の生活態度はかくあるべきというひとつの規範があるが、それに合っていないのである。掃除のし振りを見ても、雑巾を足の先につっかけて使ってみたり、雑巾の絞り方ひとつ知らない。(当時はまだ電気掃除機やモップは無かった)先生に対する会釈のし方も知らない。マナーが全くできていないのである。

このような動機のもとに創立される学校であるので、当然のことながら中村ハルは、女子のみを収容する女子高校設置の構想を練り始めた。しかし、理想の高校を創る以上は、自分の体験のみに基づく教育理念だけでは不十分である。体系づけられた教育学の理論からの見解をも求めようということになり、九州大学教育学部 平塚益徳教授(後、国立教育研究所 長・故人)、原俊之教授(後、中村学園大学長)に男女共学、別学の是非功罪について指導を仰ぐことにした。

その結論を要約すると、「人間十二、三歳位から十五、六歳位が肉体的にも精神的にも性別の発達が最も著しい年代で、中村先生が志向されるような人間の本質に基づく養育教育を徹底させるには、男女別学の方が効果が大きい」ということであった。

中村ハルは、更に人間教育の根幹をなす校訓として、「清節、

ちよっと インタビュー 張春元さん

横顔

中華人民共和国遼寧省基礎医学研究所の研究員で医師。昨年一月に来日し、本学の食物栄養学科で実践栄養部門を中心に研修。滞在中に十二冊の栄養に関する書籍を翻訳するなど精力的に研修され、一月九日に帰国された。

来日の目的を教えてください。日本は、今や世界で一番の長寿国になりましたが、その大きな要因のひとつは栄養の研究が進んでいるからだだと思います。来日は日本の栄養教育と栄養指導のあり方を学ぶためでした。

わが国には、また栄養士という制度がありません。しかし、十億人を有する多民族国家の中国の発展には、国民の健康改善が今後の大きな課題となってきました。



一年間研究をおこなっていかげでしたか。

「食医同源」という言葉が中国にあります。日本では、これがまさしく実現されているようです。お医者さんは病気がかかった人を、一人一人治療しますが、栄養士は病気がかからないように何を食べたらよいか、大勢の人を対象に指導します。中国に帰ったら、医学と結びつけて栄養面の教育をすることにしよう。この一年間で、たくさんデータの集めることができました。栄養に関する書籍の翻訳もできました。指導して下さった先生方に感謝しています。

中村学園について、心に残ったことがありますか。

私の二番目の母校として、この学校の一員のもつもりで、わが国に帰ってからも協力して研究を続けていきたいと思っています。

栄養に関する研究で、中村学園はアジアの中心になりたいとおっしゃる中村理事長の言葉を聞いたとき、とてもうれしく思いました。アジアの人民の幸福につながることであり、大きな希望をもっています。

残念だったのは、中村に中国語を勉強する人がいなかったこと。中国のことを勉強する人ができたらもっと国際的な協力もできると思います。

(一月六日 インタビュー)

平成二年度入試 無事終了

平成二年度入試は、推薦選考が昨年十一月五日・十三日、一般選考は二月一・二・三日にかけて実施され、全日程を無事終了した。志願者は、大学・短大いずれも増加し、受験者のレベルもかなり上がってきていることから、合格ラインも昨年より上昇している。三回目を迎えた広島会場での地方試験は、受験者が倍増。また、学内間での併願が多かったのも今回目についた点である。男子受験生も増加傾向にあり、本学も女子系大学のイメージから脱却しつつあるようだ。

おめでたいございます

福岡県私立学校教育功労者表彰
児童学科・幼児教育科
白木 静枝 教授

福岡県の私学の発展、向上に功績があったとして表彰。十一月十日、福岡県知事から表彰状と記念品が贈呈された。

博士号の学位取得

食物栄養学科の原孝之講師(生化学)が平成元年十一月二日付で九州大学理学博士の学位を取得。学位論文は「副腎皮質ミトコンドリアのステロイド水酸化酵素系の電子伝達反応の機構に関する研究」。

感恩、労作」を掲げることにした。この三つの徳目は本大学、短大の建学の精神の中にもとり入れられている。

校地の取得、校舎の建築、建設資金の手当て、教員陣容の確立等々困難の連続であったが、それらを何と乗り越え、果知事の認可を得て開校したのが昭和三十五年四月であった。

ここで、私にとっては一生忘れられないことのないエピソードを紹介しておこう。昭和三十六年のことである。開校後やり繰りしながら校舎建築を進め、第三期工事(講堂建築)までは順調だったが、第四期工事(普通教室十六教室増築)に当たってにっちもさっちゃんもいかぬようになった。建築資金調達のめどがつかないのである。校舎建築とか資金確保は私の責任になっていた。当時の日本は、敗戦後の復興から急速な経済の成長期に入っていた。銀行の融資にも順位が優先で教育事業は最下位である。明春四月入学してくる生徒を入れる教室の建築資金だからと平生低頭して頼んでも、学校に貸す金はありません、と銀行の冷たい返事が返ってくるだけである。



「中村学園女子高校」

その頃、私は東京に出張する機会が多かった。頭の中は建築のこと一杯であったが、福岡を離れた時くらいは気をまぎらわす酒でも飲もうと、大学時代の友人金井君を小料理屋に呼び出した。同君は伊藤忠商事東京本社の部長をしていた。杯を交わすうちに、金井君の方から、中村、君はこの頃私立学校の経営者に変身しているそうだが、学校の方はうまくいっているのか、と問いかけてきた。私は率直に困っている実状を打ち明けた。「そういって、今日はヤケ酒の相手に君を呼んだよな訳だ」と謝った。金井君、暫く考えていたが、それならいい方法がある。伊藤忠商事の方で校舎を建ててやる。支払い、校舎完成後年賦か何か可能な方法でよい。今度福岡の方に支店が開設されるから、支店長によく話を付けておく、とのことである。地獄で仏とはこのことである。福岡に帰って来て早速、伊藤忠商事の支店長に会い、契約を済ませ、校舎の増築工事に着手することができた。中村ハルもこの時はばかりは余程嬉しかったとみえて、久雄君はよく友達と酒を飲んでるが、たまにはいいこともあるもんだ」と珍しくほめられたものである。

卒業生の皆さん、本日は「卒業」に改めてとことございませう。

いよいよ明日は旅立ちの日、長い年月育んでこられた力と勇気をもって飛び出して頂きたいと思

「勉強は終わった」と思っている人はおりませんか。あなた自身の真の勉強はこれから始まるのです。世の中では、あらゆる場面で選択と決断を迫られます。その際、あなたの不断の勉強量が試されるのです。卒業生の家を訪ね、本欄に大学時代の本しか並んでいない時ほど淋しい思いをすることはありませぬ。

卒業生に贈るメッセージ

学生部長 波平 元辰

長い人生にはいろいろ思い悩むことも多いでしょう。ストレスによる病気も益々ふえることが予想されます。私は、悩みには、生と死を含め人間性にかかわる「真剣な悩み」と、その人の所属や立場など、個人的な「一過性の悩み」があると思っております。われわれ凡人の悩みは殆どが後者で、工

1990
March
15th



時代にクラウンソングにしていた「ひよっこりひよつたん島」の歌を口ずさんでおります。……まるいちきゅうのすいへいせんになにかがき一つとまっている……。二十一世紀に向う皆さん。どうぞお健やかに、いつも希望をもってお進み下さい。

今、世界は大きく変わるうとしております。余程しっかりと自分を見つめ、大地に足をつけておかないと、国も個人も大きなうねりに飲み込まれてしまいます。広い海に囲まれながら、どうして日本は明るい海洋国家ではなく、いつまでも暗い島国なのでしょうか。



大学 児童学科
児童教育学専攻
堀内 恵美子

人との出会い 自分との出会い

この四年間、教育実習、教員採用試験等、人間の成長のための幾つかの試験がありました。その中で小学校教員という目標に向かっていつでも精一杯の自分に出会えたことは、私の大学生活での大きな収穫です。自分自身の可能性を発見し、広げることができました。そして社会人予備軍として、将来の夢や希望について自由に、徹底的に語り合えたことは私の大学生活の大切な思い出です。これからの社会、教育について、また恋愛、結婚について友人と語り合う中で私なりの教育観、人生観を打ち立てることができました。おそらく大学時代にしか出来ない事だったろうと思えます。



短大 食物栄養科
江頭 美紀子

門出にあたり

月並みな言葉ではありますが長いようで短かった二年間でした。いろいろなことがありました。学園生活、寮生活、自治会活動を通して、まずはよく笑ったなあということ。楽しいこと、感動、苦しみなど一瞬の間にいるんなことが浮かびます。学生時代本当に楽しかった」と断言できるこのころです。また学生だからという甘えからいい加減なこともやってきたような気がします。春から私も社会人の仲間入り。そして、今の私の目標は自分を好きになること。自分を好きになり仲よくなることが一番大切なことだと思えます。自分を好きになるといことは自分に自信がもて行動、考えに責任がもてること。二十歳の仲間入りをし



短大 家政科
平野 めぐみ

心の支えに

事故に遭って片足を失い一年前と違う体になった私にとって、学生生活は不安いっぱい始まりました。皆と同じように出来なくなつた私には、同じ年齢の人たちの光景は辛いものでした。励まして下さる方々の言葉でさえ重荷に感じ、悲しくてたまりませんでした。しかし、学生生活を送っていくうちに励ましが本心の心の支えになり、以前の消極的な考えが間違っていたことに気がかされました。そして、毎日が有意義で楽しいものになり、ゼミの友人との活動など楽しい思い出が沢山できました。



卒業して四年—今思うこと

福岡県瀬高町立南小学校教諭
塚本 やすよ (旧姓 岩崎)

今、新たな旅立ちをしようとしているあなたたち。心の中は、あふれんばかりの希望でいっぱいでしょう。そんなあなたたちに贈る先輩からのメッセージ。一言一言を噛みしめその暖かさをくみとってほしい。そしていつかあなたも後輩へメッセージを届けてください。

この度、学園を後にされる皆様、心より、御卒業おめでとうございます。早いもので、私共が卒業して四年の月日が流れ、その間に母校中村学園の制服は変わり、新校舎が完成するなど、その変革に、うれしさと同時に少しばかりの淋しさを感じます。

ある私のことはひとつが、子どもらにとつて心地よいクッションや意欲の糧となることもあれば、痛く後々まで傷を残す針と化してしまつたことだつたのです。一日一日と成長する子どもたちを前に、自分はまた新米だからという甘えは通用しません。

晴れて卒業を迎える皆様、取り敢えずはおめでとことございませう。制服姿の皆様が様々な思い出の学園の教室にいらつしやるのかと察するに、いつしよに喜びと不安を味わっている様な不思議な感覚に浸つてしまひます。

ひとつに、広い視野・心を持つこと。遊びも勉強も何でもチャレンジし、人と接し、多くを考え、自分を人間として高めてゆきたい。栄養士は栄養の知識を単に伝えるのではなく、相手に植え込み、行動を変えさせるプロですから。大きな広い心と視野を持つていないと到底出来ない。

学園を巣立つ皆様へ

三重大学医学部附属病院 管理栄養士
手島 信子 (旧姓 百田)

私は現在、九州から離れ、三重県は三重大学医学部附属病院栄養室に勤務し、約七年になります。学園卒業後、女子栄養大学の修士課程に進み、縁あってこの地で病院栄養士として歩みはじめました。幸い環境に恵まれ、仕事を通じて多くの勉強が出来、あつという間であつたと感じております。

ひとつに、学生時代に修得・経験した事は残らず頭の抽斗に仕舞うこと。学問は進歩していくけれど、その基本はやはり学生時代のテキスト達。これから先も、仕事だけでなく、生活をしていく上で否応なく抽斗を開ける必要に迫られます。そのためにも時々自分で整理しておきたいもの。

頑張れ後輩

—卒業する皆さんへ—

この度、学園を後にされる皆様、心より、御卒業おめでとうございます。早いもので、私共が卒業して四年の月日が流れ、その間に母校中村学園の制服は変わり、新校舎が完成するなど、その変革に、うれしさと同時に少しばかりの淋しさを感じます。

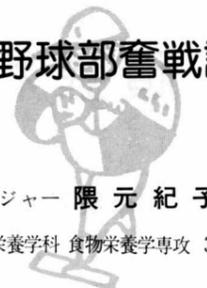
今から社会へ飛び立られる皆様、いつも心の目で自分自身を見つめながら、社会人としてがんばつて下さい。(昭和六十一年三月 月大児童教育学専攻卒業)

今から社会へ飛び立られる皆様、いつも心の目で自分自身を見つめながら、社会人としてがんばつて下さい。(昭和六十一年三月 月大児童教育学専攻卒業)

まずはお便りまで。(昭和五十六年三月 月大管理栄養士専攻卒業)

軟式野球部奮戦記

マネージャー 隈元紀子
(大学食物栄養学科 食物栄養学専攻 3年)



「お願い！守り抜いて！」
延長十二回、対戦チームの北九州大学の攻撃。ツアアウト、ランナー一塁。あと一人で決まる！
皆の目と願いが一つになって投手に集まっていた。

「ボール」審判の音が響く。
「ドンマイ、ドンマイ」「ファイト」皆の応援にも力が入る。
見る事が恐くなって思わず目を閉じた時、試合の途中で部長の言った言葉が頭をよぎった。
「今回、本当に真剣です」
その瞬間、ハツとして目を開けた。

投手が球を投げ、それを打者が打つ。「あっ」と息をのんだ時、打ち上げたその球は、そのまま打者の背中に落ちた。
「アウト！」
わっと歓声上がる。肩をたたき合う者。抱き合う者。泣く者。表現の仕方は違ったが、皆が喜んでた。

秋季リーグ戦での最後の試合、

勝てば優勝、負ければ第四位という大変な仲しだこの試合は、いつもとは違う緊張度の強いものであった。
帰り道、皆の顔は満面笑顔にあふれていた。

いつの試合も、一番心配だったのが人数のこと。もともと人数が少ない上に、授業などで来れなかつたりする為、九人や十人で行く事がよくあった。また、人数が揃っても球場へ行く為の車が足りず、何人かバイクで行く事も珍しくなかった。
どんな時も、皆で助け合ってきた。まさに全員で掴んだ勝利だった。

その次の日から、大阪で開催される西日本大会に向けての本格的な準備が始まった。しかし十一月十日からの学園祭を目前に控え、部員の大部分が学園祭実行委員を兼ねている現状では、肝心の練習をする暇もない。遠征のための旅費など、資金確保のメドもない。いろいろな方に相談する中で、

幸い資金については、同窓会・父兄後援会・教職員・学生有志・自治会などたくさんの人達から心暖まるカンパを受けることができた。周囲の方々の好意に添えるためにも、是非がんばらねばならない。それこそ不眠不休の状態準備し、何とか学園祭の初日を迎えた。次は西日本大会だ。
出発当日、眠い目をこすりながら



らも、胸中は期待と不安でいっぱいだった。
結局、出場が決定して以来、練習をしたのは、この日のバッテリー練習くらいだった。
試合の日。何よりも驚いたのは球場の広さである。学校のグラウンドの三倍はある。九州大会とは全てが違っていた。
惜しくも一回戦で敗れはしたが、昨年の優勝校同志社大学を相手に七回までは0点に押さえ、互格の戦い。本当に素晴らしい試合をすることができた。目一杯やったんだという充実感が、ひしひしと胸に追ってくる。
「ゲームセット」のコールを聞きながら、私達の熱い夏も終わったなと思った。しかしまた、新しい季節が準備されている。新しく部の核となる後輩達が、きつとまた素適な花を咲かせてくれることだろう。私達を暖かく見守ってくださった先生方や先輩方、そして友人達にも感謝したい。

ゴミ問題から考える

このままでいいのだろうか

「いまや大学は軟派者最終決定機関になっているのではないか」その証拠に学園祭という軟派な催し物が多い。それならば「真」の学びを実行している私達の底力を見せてやろう。これが私達六名が学園祭で「ゴミ問題」を考える「ゴミシンポジウム」を開いたきっかけである。

しかし、テーマを最初から「ゴミ問題」に絞っていたわけではない。なぜ「ゴミ問題」に行きついたらかといふと、一つは「ゴミ問題は単にゴミとしての問題ばかりではなく、環境破壊や資源の問題、それを生み出す人間や現代文明など色々な問題を含んでいるからである。そしてなんとこれも、最大の決定要因は学内にあった。」
本学は女性が多い学校だ。そして食物に関する研究をしている先生と学生、教育のエキスパートを

目ざす学生とそれをサポートする先生がいる。にもかかわらず、「ゴミ箱からあふれたゴミ」たちは、教室中を駆けめぐり、机の中に入れてもらっている。
また、これだけ教室中に「ゴミ」が散らばっているのに、講義中に「今日は「ゴミ」掃除の時間だ。みんなぼうきと雑巾をもってこい。」などといふことをおっしゃる先生も私達の知っている範囲ではおられない。私達も含めて「ゴミ問題」に関して無責任であったようだ。そう思い「ゴミ問題」に絞ったのだ。

このように動機で始めた私達の活動も、時間と人数の不足のため思うように進まず、毎日が自分との戦いであった。懸命さの余り口論することもしばしばあった。
そんな中でも「ゴミ問題」の実態を知るために行なったフィールドワークは、「ゴミ問題」と日夜戦っている

方々の素晴らしい話を聞く事が出来、また様々な体験を通して、心の豊かさを持たせてくれる最大の解放的学びの場になった。そして何よりも自らそういう場をつくる事に、より一層の喜びがあった。
分別集約の悪さに困り果てている処理場の方、市民に一日百グラムの「ゴミ」減量を切望される環境局の方、廃物を利用して子どもたち

ら動く事によって得るものの豊かさ、そのすばらしさを学んだ。
このことは私達にとって一生の宝となりそうだが、今回の活動は「はじめの一歩」である。これからは、本当の活動の始まりである。「ゴミ」を見てみると目先のことに何を学ばせようとしておられるのであろうか。また学生たちは大学で何を学ぼうとしているのであろうか。知識ばかり食べさせられ消化不良をおこしてはいないだろうか。今回「ゴミ問題」を通して、一人一人の意識の持ち方が、つまり、一人一人が自分の問題であると考えていない限り問題は解決しないという事がよくわかった。そして一人一人が積極的に取り組まねばならないことも学んだ。
いま私達は、「一人一人が考えたことが文化である。」といふことの意味がわかりかけた気がする。

自分たちの手で、足で、そして頭で社会に参画していくことが、問題を解決していくはじめての歩であると思っている。
私達は、何か大切なことを忘れていたのではないだろうか。もう一度、自分の身のまわりを振り返っていただきたい。自分自身のはじめの一歩を見つめるためにも。

- 児童学科児童教育学専攻 三年 平山 隆浩(文責)
- 児童学科児童教育学専攻 四年 平井 康尚
- 二年 岸川 恵理
- 二年 竹迫 和代
- 二年 府高 優子
- 二年 山口 富美

日常の「ゴミ問題」は、単に「ゴミ」だけにどまらないうち、大きな課題を含んでいるようです。とりあえずは、当面の「ゴミ」を「取り組む」か、学生達から問題提起がありました。読者の皆さんと意見をお聞かせください。(編集委員)

子どもの心 (4)



児童学科・幼児教育科 教授 篠原 忍

静かな研究室生活に戻り、幼稚園児達と接する機会が無くなってからもう随分長い年月が経ちましたが、いくつかの思い出は懐かしく蘇って参ります。

水遊びや泥んこ遊びをいやがる子、他の子ども達の活動の輪に入らないでいる子、小さい声でしか応答しない子、お友だちと一緒に遊ばない子、保育室の片隅でじっとしてお友だちの動きを見ている

子などが、一番に顔に浮かんできます。あの頃は、「腕白でもいいたくましく育てほしい」というコマーシャルが流行っていたためか、積極的に元気のいい子が、どこの園でもどこの家庭でも理想の子供像としてクローズアップされていました。けれど子供、でも、幼稚園が好きで、静かにお友だちの動きを見守っている子供・・・私は大好きです。

「この手もて 人をあやめし 死囚われ 同じ両手に 今は花活く」
「世のために なりて死にたし 死囚囚の 眼は黄い手も 無きかもしれぬ」

等、数々の歌を残して刑死したある死囚囚は、「君は、絵は下手だが構図はうまいな」と小学生時代に先生から言われたのが、唯一の褒められた記憶だと教師に語ったということです。誰からも褒められなかった彼の罪でしょうか、褒め得なかった者達の罪でしょうか。純真な幼な子の心をしっかりと受け止めてやっているか否か、深く考えさせられています。

芥川賞作家 高樹のぶ子さんと語る トークセッション「明日に向かって」



第九十回芥川賞を受賞された福岡市在住の作家、高樹のぶ子さん。一月三十一日に本学多目的ホールで催された。テーマは「明日に向かって」。学生、教職員ら約四百名が参加した。
冒頭、高樹さんは、「作家としての私自身のために二十代前半の人たちが何を考え、何に夢中になっているのか、その心のうちに触れてみたい」と、あえて講演形式でなくトークセッションにした理由を説明された。
高樹さんの意気込みに気圧されたのか、当初会場全体に緊張感が漂っていたが、「恋愛について」あるいは「生き方」など学生の質問に「いねいに答えられる高樹さんの言葉に、参加者はしだいに引き込まれていったようである。
しかし、もっと活発に意見を交換しあうことを期待されていたのだらう。途中高樹さんから「二十代の人にもどかしさを感じるのには、自分の感じたことや感動したことを表現しよう」ということだ。私は、「これが好き」「こう思う」という主張をしないと無視されるような全共闘世代を過しました。感じたこと」を今の人は出さない傾向がある。皆さん

は、自分の感じていることを、もっと自信をもって表現してほしい」とアピールされた。
約二時間におよんだトークセッションはあっという間に終わり、最後に学生へのメッセージとして、「今の君たちには若さだけがあります。しかしこれから社会に出て働き、経済力も蓄えていくでしょう。でも、いくら経済力があっても、若さのない人生は悲しいものです。『これだけのことをやったんだ』というものをもって人生を過ごしてほしい。若さを削ることにより何を残していかれるか、人生の最後にはその人の生き方が問われるのです」と述べ、締めくくりの言葉とされた。

併設校の話題

あさひ幼稚園

七十二年ぶりの大雪で、一夜にして真白なゲレンデに変わった赤土山。十センチメートルの積雪は園児たちが遊ぶのに十分だ。園舎からビニール袋を持ち出しては、思い思いに斜面を滑って転んで大はしゃぎ。大人には迷惑の大雪も、子供達にとっては楽しい遊び道具だった。



吉岐幼稚園

母の会からプレゼントされた大きな花壇、さっそく園児全員でチューリップの球根を植えた。冷たい雨や雪にも負けず、元気に土から芽を出した。春になって新人園児がくる日には、百四十本の赤・黄・ピンクなど色とりどりの花で迎えてくれるだろう。

吉岐幼稚園の名物行事「ほうげんぎょう」。大きな真竹に、家から持ち寄ったしめ縄を集めて火をつける。勢いよく上る炎に「強い子になりたい」、「お父さん、お母さんを喜ばせる子になりたい」と無邪気な願いをかける子供たち。残り火で焼いたお餅はこのほかおいしそうだった。

中村学園三陽中学・高校

冷たい雨がそぼ降る二月十六日恒例となった校内マラソン大会が中学、高校合同で行われた。中学生は五キロメートル、高校生は十キロメートルを制限時間内(中学四十分、高校八十分)で競う。

この日のために生徒たちは、放課後グラウンドや校地内の一・五キロメートルのジョギングコースでトレーニングしてきた。「頭だけがいい子は三陽にはいらない。心も体も遅い子になってほしい」との方針が始まったこの大会、年々記録もアップしてきた。

今年には中学の部で十八分十八秒の新記録、高校の部もあと一歩で新記録の三十三分五十秒だった。しかし、先生たちにとって何よりもうれしかったのは、一人も落後

者が出なかったこと。上位三名に贈られる金・銀・銅のメダルも、できれば全員にあげたかったと、ある先生の言葉。

私立大学の入試合格発表がたけなわの二月下旬。職員室にうれしいうれしいうれしい知らせが入った。福岡大学医学部に三名合格。入試の中でも最難関の医学部に合格したことは、予想できたことはいえ驚きだった。

昨年の第一回卒業生が拓いてくれた道を、今年は確実に地ならししてくれた。その真面目な努力を讃えたい。四月には新しい生徒が入学する。「誠実に努力すること」の意義を、誰よりも卒業していく彼らが教えてくれた。

中村学園女子高校

四月の新生生から制服のデザインが変わる。同高校のイメージアップになりそう。大きく変わったのは、これまでのジャンパースカートがひだスカートになったこと。また、胸元がすっきりしたために、アクセントのリボン(紺に青のストライプ、エンジの二種類)がひと際鮮やかにひきたつ。校章の水仙の花をあしらったエンブレムがかっこいいと在校生の評判だ。新しくベストも加わった。

新しい制服が展示してある進路指導室には、昼休みともなると在校生が押し寄せている。最近の女子高生のファッションセンスはなかなかのものだが、彼女達の反応から見ても、新しい制服には合格点

カリブ海の島国から

「あけまして おめでとうございませう。昨年は、あれよあれよと波に乗って、気がついたら地球の裏側に、ドミニカまで来てしまいました。同僚の栄養士さんと村まわりをして、栄養改善を試みています。まだ、スペイン語が上手にしゃべれないので、今のところ同僚の後ろにくっついていただけです。今年、少しアンケート調査などしてみようと思っています。元気で暮らしています。1990」

これは、短大食物栄養科を昭和五十五年三月に卒業した田中希代美さんからの年賀状です。田中さんは、現在海外青年協力隊の一員として、カリブ海に浮かぶ島国ドミニカ共和国に滞在中。苦労は多いかもしれないけれど、卒業後、学校給食栄養士として働いたキャリアを生かしての活躍を期待したい。



元気に頑張る田中さん(右から二人目)

安心院町から 視察団来校

小春日和の好天に恵まれた十一月二十五日、大分県安心院町から学校見学と研修学習を目的に三十六名の皆さんが本学を訪れた。安心院町では本学の城田知子助教が昭和四十六年から五十八年までの十二年間、住民の生活調査を実施。また、昨年九月には約六年ぶりに再調査を行っている。

一行は、この調査に参加した学生達の熱心な姿に感心し、本学でどのような教育が行われているのか、実際に確認してみたかったと訪問の動機を語られた。

会議室で学長の歓迎の挨拶を受けた後、一行は学内を見学。食物栄養科の学生が集団給食実習で作った昼食も堪能された。午後からは城田助教の「食品と栄養について」と題する講演もあり、有意義な一日を過ごされたようであった。

一行の中には大学食物栄養学科を昭和五十五年卒業した久井田早苗さんと、短大食物栄養科を昭和四十九年に卒業した岩男寿子さんの二名もあり、旧知の教職員と歓談したり、西一号館の建設などで在学当時とはすっかり様子をへ変じたキャンパスに感慨も新たにしておられた。

もう一度思い出してみたい
あの日の気持ちを
はじめて制服を着た日
はじめて実習に出かけた日
はじめて会社訪問をした日
文字にしてみれば
たった一行の記録でも
その中には
自分だけのドラマがあったはず

- 平成元年4月
- 4日 入学式(大学生二百六十三名、短大生八百九名、計千七十二名が入学)
 - 5日 新入生オリエンテーション(16日)
 - 8日 講義開始
 - 14日 セミナーハウス用地造成工事起工式
 - 17日 新入生宿泊研修会(〜22日) 広島グランドオープン (記念行事として軟式野球同好会と三陽高校軟式野球部の親善試合を開催)



- 20日 後期講義開始
- 26日 中村ハル育英奨学金が大学生四名、短大生六名、計十名に授与される。
- 30日 第二回リーダー研修会(〜10月1日)
- 29日 開および進学説明会
- 20日 就職会社説明会および会社訪問開始
- 3日 夏季公開講座(〜4日)
- 1日 就職求人票公開
- 20日 前期試験(〜31日) (衆衛生科教授)
- 14日 前期講義終了
- 14日 豊川裕之氏講演会 (東邦大学医学部公衆衛生科教授)
- 30日 職種別就職セミナー開催(〜7月8日)
- 13日 第一回リーダー研修会(〜14日)
- 14日 就職に関する父兄地区連絡会開始 九州各県および山口県の10会場(〜6月25日)
- 16日 学園創立記念式典
- 17日 学園創立記念日
- 28日 新入生歓迎運動会(大学・短大学友自治会主催)
- 30日 職種別就職セミナー開催(〜7月8日)

Dramatic 1 この一年の動き

- 1日 就職採用内定開始
- 6日 ノートン・ネルソン氏講演会 (ニューヨーク大学名誉教授)
- 14日 「地域社会における福祉と教育を考える」公開講座開催(〜12月16日・毎土曜)
- 5日 大学推薦入試
- 10日 大学推薦入試合格発表
- 18日 吉岐幼稚園創立十周年記念式典
- 19日 池上嘉彦氏講演会(東京大学教養学部教授)
- 19日 短大推薦入試
- 25日 短大推薦入試合格発表
- 29日 中野孝憲氏(津軽三味線)中野道子氏(津軽民謡)学内演奏会
- 2日 中村久雄理事長叙熱祝賀会
- 16日 第三回リーダー研修会(〜17日)
- 24日 講義終了
- 8日 講義開始



情報処理実習室で(キャンパス公開)



「寄ってらっしゃい…」霜月祭にて

- 13日 講義終了
- 20日 後期試験(〜31日)
- 27日 西一号館竣工式
- 31日 高樹のぶ子氏講演会
- 1日 大学一般入試
- 2日 短大一般入試(食物栄養科・幼児教育科)
- 3日 短大一般入試(家政科)
- 10日 大学・短大一般入試合格発表
- 21日 国際交流デー(〜22日)
- 3月
- 15日 卒業式(大学生二百六十三名、短大生七百六十二名、計千二十五名が卒業)
- 16日 大学謝恩会(ソラリア西鉄ホテル)
- 17日 短大謝恩会(ホテル日航福岡)



(受験番号は…)入試合格発表

大学紹介ビデオを製作中

本学をめざす受験生を対象にした、学校紹介ビデオの製作が進められている。「中村学園のことをもっとよく知りたい」という、受験生の要望に応えるのが目的だ。在学生や卒業生を構成の主体に置き、入学後のキャンパスライフや卒業後の活躍の様子が具体的にイメージできるようにつくりとっている。



ビデオは六月に完成する予定。あなたの声を聞かせて下さい

本誌では、教職員・学生・父母・同窓生をはじめ多くの皆様からの意見や情報、投稿をお待ちしております。学園の身近な話題や本誌の感想、取り上げてほしい事柄、随想など何でも結構です。広報誌委員会までご連絡ください。なお掲載についての取捨選択は、当委員会にて一任願います。

編集後記

西一号館の完成 二十一世紀に向けての準備は、着々と進みつつある。活力のある学園生活の断面を、できるだけたくさんこの誌面に盛り込んでいきたい。ヨチヨチ歩きとは言いながら、その意気込みは一人前。皆様方の一層の支援をお願いしたい。